

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里-向敷地 <山側ユニット>		
所在地	静岡県駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	平成31年1月2日	評価結果市町村受理日	平成30年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail%2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2294202078-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊社の施設では初めての平屋の建物となります。外観は白い壁で洋風ですが中に入ると和モダンで落ち着いた作りになっています。山側と川側の2ユニットで真ん中の壁を外すと両方が繋がって合同で行うイベントにはとても広い空間ができ伸び伸びとした動きができます。お風呂は可動式で利用者様の身体にあわせて変えることができます。又各居室には安全性に考慮して低床ベッドを備え付けカーテンは優しい色合いにして壁も山側と川側の色を変え皆さんが落ち着いて暮らせるように案を出して出来上がりました。場所は緑の山と安倍川に囲まれ安倍川では夏の花火大会を目の前で見ることができのどかで静かな雰囲気です。

木目調のシックな素材で統一された、穏やかな雰囲気のある事業所です。開設したばかりで未だオペレーションは落ち着かず、職員の係さえ未整備の状態ですが、『利用者第一』を旨に利用者一番の楽しみである毎日の食事とともに、食レクにも大いに力を注いでいます。管理者が自宅でスポンジケーキを焼いて、クリアスマス用に利用者がデコレーションしたときは、「珈琲とセットだと千円はするね」と利用者も弾んだ声を発し、ホットプレートでの餃子パーティーでは包むプロセスを愉しみ、「月に1度はお出かけ&食事」ではペイドリームのお刺身定食、用宗港のしらす丼、真富士の里でのかき揚げ蕎麦等々、目と舌で季節を堪能しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月に開設し企業理念が職員全員に周知されていない為常に見る場所に企業理念を掲げ一日のスタートとして毎朝、朝礼時の最後に必ず読み上げて全員が共有して実践につなげるようにしている。ここに入居者様にも参加して頂くときもある。	理念は掲示され、朝礼では必ず唱和していません。管理者を含み数名が法人内の異動であることもあり、開設時から理念の理解と浸透は進んでいます。特に『社員条件10項目』は、管理者から「人として大切なことだから」と繰り返し話しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩中ご挨拶したり地域の事業所の催しには利用者様を連れて参加させて頂いたりできる限りの交流を深めていくように努力している。	町内会に加入し、職員情報からどんど焼きにも利用者と一緒にでかけています。建物のオーナーと、その親戚が周辺を取り囲む立地ということもあって、隣近所には歓迎されての開設で、オーナーからは「蕎麦打ちに行くよ」と、趣味でのボランティア提案もあります。	地域の福祉マップの把握が遅れています。まずは地区社協並びにS型デイサービスへのアプローチがあることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所様にはご挨拶に回っている。又、顔を合わせた時には認知症の為大声を出したり、テレビの音を大きくしたり、ごみを窓から投げ捨てたりしてご迷惑をおかけしている事など認知症についてはお話をして理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の現況、行事等を報告し又町内会長、地域包括センター様のアドバイスを受けそれをこれからの運営に生かしていけるようにしております。	運営推進会議は町内会長、地域包括支援センター、家族、法人本部職員をメンバーとして隔月開催が叶っています。町内会長からは健康管理や土砂災害について貴重な意見をもらっており、また今後は民生委員の出席も乞い、地域に溶け込んだ取組みを目指しています。	運営推進会議のメンバーの希望曜日調整を進め、メンバー総意の開催日となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内等区役所に提出しているがお忙しい様子で欠席のお返事が来てます。又介護相談員の受け入れもまだお願いしていないので近日中にお願いに伺います。	地域包括支援センターとは内覧会で顔合わせもできており、運営推進会議にも毎回足を運んでもらっています。また『元気いきいき！シニアサポート事業』と『静岡市介護相談員』への登録を現在準備中です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会では「身体拘束」についての勉強会を行ったり朝礼時にも「ヒヤリハット」を読み上げそれについて話し合ったりしている。特に玄関の施錠については絶対しないことをスタッフは認識している。	昨年6月の運営推進会議で、本年度の法改正に係る身体拘束廃止に向けた委員会発足を発表し、定例会の終了後に開催しており、すでに4回の実施をみえています。またヒヤリハットのファイルにその日の事例を記録することが奨励され、職員の習慣となっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会では「身体拘束」についての勉強会を行っているがその際「虐待防止」についても学ぶというものが虐待であるかスタッフ全員に周知してもらっている。又その場面を見たら注意、又は管理者に報告をするようにして防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ該当する方はいらっしゃらないがこの件については包括支援センターの勉強会に出席しておりこれからの支援に生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ずご本人、ご家族に見学をして頂きその際十分説明をして疑問点・質問等を伺いご理解や不安をなくしてから契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の要望を聴き記録に残してできる限り一人ひとり希望を叶えるようにスタッフ全員で共有している。	面会時間を特に定めず、家族には自由に行き来してもらっています。未だ勤務者である若い家族が多く、出勤前の7時台や帰宅時の20時台に立ち寄るほか、毎日の面会という家族もいます。毎月の請求書に写真を入れて一筆添え、敬老会などの行事にも誘っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人一人と接触するようにはして意見・要望などを聴きそれを生かすように努力はしている。又、申し送りノートを活用して職員の意見・希望を出してもらい皆で検討したりしている。	定例会議は年間計画において日程も定まり、堅固な開催となっています。申し送りノート、管理者ノートがあり、思いついたことは何でも書いておけるとともに、管理者から声をかけやすい雰囲気をつくっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価、現場評価、テストの結果により昇給等の参考にしている。又、通常の勤務状況や実績を評価して3月の社員表彰式を行ってやりがいや向上心を持って働いてもらえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社3年以内の職員には本部でフォローアップ研修を行ったり11月より月1回、外部の講師を招いて勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域で行っている長田地域密着連絡会では本年8月より参加させて頂き人材確保等困った事をお互いに意見交換して情報を共有しサービス向上に取り組んでいる。11月の第29回では弊社で実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はまだ慣れないこともあり寂しいをししたり不安にならない様職員ができる限り寄り添って聴いてあげたり関わりを持ちコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面談時には必ずご挨拶をしてお話をする時間を設けご家族の希望や困ったことなどをお伺いして不安がないようにしている。又県外にご家族がお住まいの方についてはメールやお手紙等で近況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には施設見学をして頂きご本人様と面談をしてアセスメントをとりその時点で必要としている事や希望、困った事を聞き取り担当の介護支援専門委員からの情報も提供して頂き初期対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあくまでも施設の者ではなくその時の状況により娘、息子、孫、友達になったりしてみんなで和気あいあいと一緒に暮らしている気持ちでいる。但しあくまでも馴れ合いにならない様尊敬の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族を尊重し思いを真摯に受け止め失礼の無い様に良い関係を持つように努めている。面会時にはご本人とご家族がゆっくりお話できるように場を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間を気にしないでいつでも来ていた頂けるように声掛けをしており来て頂いた際には職員一同笑顔で接するようしており場合によっては居室へご案内をしたりしてスタッフ全員が来やすい状況を作っている。	お米を研いだり、野菜の皮むき等を慣れた手つきで手伝ったり、干し柿づくり、流しソーメンと、これまでの暮らしの中にも季節感のある手仕事を利用者に提供されています。昔とった杵柄で他の利用者の衣服の修繕をする人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては個別対応するときがあるができる限り職員、利用者が混じったりしてみんな雑談したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はまだ期間が短いので契約終了のケースはないが今までの経験上、お手紙を出したりボランティアに来て頂いたりしてお付き合いを続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に話す機会を作り、今したい事、困った事、要望を聞きスタッフ皆が共有できるように記録に残して思いを叶えようと努めている。スタッフはまだ少ないうちのできる限り希望を叶えてあげたいと利用者に対する気持ちは強い。	「利用者を交えて話そう」と職員に呼びかけ、職員同士で固まって話すような光景は当事業所にはありません。「〇〇さん、大丈夫?」「~だからね、あちらと一緒に行きましょう」といった、丁寧で配慮ある職員の姿を何度となく視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子をご家族、入所していた施設、介護支援専門員などの情報を提供して頂き今までと生活が大きく変化することがなく同じような生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やその他職員同士顔を合わせた時はお互いに現状報告をして常に利用者の把握には努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会やカンファレンスでご本人、ご家族の要望等、ご本人の変化を職員間で共有し意見交換を行い介護計画を作成している。	入居間もなくは仮の介護計画書ですが、1ヶ月後に再作成し、軌道に乗ると半年に1度の見直しを介護支援専門員(計画作成担当者兼)がおこなっています。職員意見はカンファレンスで取入れ、本人が意向を言えないようなケースでは家族意見が中心となることもあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士私的な話はしないでその分利用者にも目を向け気が付いたことは経過記録表、バイタルチェック表に詳しく記録しその場、朝礼時、会議時に話し合い情報の共有をしている。最近全体的に利用者にも目を向けることが多くなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	殆ど既存のサービスに捉われない事がなくご本人やご家族のニーズには柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近隣を利用したりボランティアもなるべく近隣の方をお願いしている。利用者のご家族にも協力を頂き駐車場でさんまを七輪で焼いたり敬老会では本の読み取りなどお手伝いして頂きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第一、第三金曜日に往診に来て頂き利用者様の状況を詳しく説明して診て頂いている。常に医師との連携を図っており利用者の状態に変化が見られた場合はすぐ担当医に連絡をして指示を仰ぎ重症化しないように努めている。	訪問診療を月2回おこなう協力医に6名が変更し、2名とともに全体の他科受診は家族が受診支援をしています。バルーンを使う利用者のことについては訪問看護事業所と医師と3者で打ち合わせをしたこともあり、相談しやすい先生で助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週に一度来て頂きバイタルチェックや状態を報告し利用者様の健康管理に努めている。担当医との連携がとれているので変化がみられたらすぐに担当医に状況を説明して頂け担当医の指示を頂いているので早い対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状ではまだ入院はされていないが利用者の身体の変化や緊急事態の場合は訪問看護師、担当医師にすぐに連絡をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当する方はいらっしゃらないが「看取り及び医療連携に関する指針」を作成し入居時にはご家族に説明をしている。現在職員の半数以上は他でも看取りを経験している事や定例会でも勉強している。今後取り組んで行く意思は十分にある。	重度化、終末期に係る説明及び書面合意は契約時にあるものの、「まだお元気なのに…」との想いがぬぐいきれず、詳細は控えています。法人内の異動や以前の勤務から、大半の職員が経験者のため、本件における心配は特にありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎研修で本部の研修を受けているがまだ途中採用の者は受けていないので今後全員に身に付けて行く。応急手当はその場面で指導している。主治医、訪問看護からの指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練は実施できた。その中には夜間帯も想定して夜勤者全員に参加して頂き行うことができた。消防署は水消火器を借りて利用者様を交え使用方法の訓練を行った。	年2回の法定訓練の実施は終わっています。第1回目から利用者個々に防災頭巾を被り、水消火器も体験して、職員と一体化した訓練をおこなったことは、事業所内の掲示写真でも確認できます。土砂崩れと水害は多少心配される地域のため、自家発電機の設置もあります。	消防署員の立ち合いは求めています。日程が合わなかったようなので、先方の都合を事前確認しての実施を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉掛けをすることや不適切な言葉遣いをしない様接遇については十分指導しているがそれが見られた時は管理職がその時点で呼び注意、指導している。	設計段階から現管理者の意見が反映され、「リビングからトイレの開け閉めが見えないように」とか、浴室傍にトイレを設置することで扉が二重となる等の配慮が見られます。また利用者双方の行き違いから言い争いになることがあり、席にも気配りしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや外出先を決める際、必ずそれぞれの希望を伺うようにしてなるべく順番に叶えるようにしている。又欲しい物はご本人を連れて好みの物を決めて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分の仕事を優先するのではなく経営方針でもある「お客様第一主義に徹する」の通り一人ひとりの要望・希望に沿う過ごし方をするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みやおしゃれの把握をしてその人らしいお洒落を支援している。男性には髭剃り等、女性には一緒に洋服を選んだり冬にはホットタオルで顔を拭いてクリームや化粧水をつけたりお化粧をしている方にはお手伝いをしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際もやしのひげ取りや餃子作りなどのお手伝いをして頂いたり食前にはテーブルを拭き食後には片付け、食器ふき等のお手伝いをして頂いている。味見をして頂きアドバイスを受けることもある。お楽しみメニューはリクエストを聞いて決めている。	ご飯に汁物、主菜、副菜にデザートとバランスの良い構成で、職員手作りの献立です。「美味しい」と評判で待ちきれずにキッチンカウンターの前を行ったり来たりする人もいます。毎回写真撮影し、メニュー表とともに、面会の家族に観覧してもらおう取組みもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録は必ずしており職員は利用者により食べる量をほぼ把握してその方にあつた量、形状を把握して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをしてご自分でできる人は無理の無い程度にやって頂き介助の必要な人にはお手伝いをしている。就寝前には義歯洗浄、消毒をして保管している。ご家族には歯の状態を報告し希望があれば訪問歯科の受診を受け口腔環境の改善をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはオムツ等は使用せずトイレで排泄する事を目標にしている。利用者によっては夜間帯のみオムツで日中はパンツ、パットにして排泄パターンを把握してトイレ誘導し無理の無いよう支援している。	「いけそうじゃない?」と職員間で話し合い、チャレンジしてリハパンから布パンとなった向上例もあり、現在おむつ使用は1名のみです。また布パンとなっても下痢気味ならリハパンとする等その時の状態に合わせて対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェック表に記録して毎朝申し送り時に便秘が何日目であるか確認。利用様により便秘薬の調整して大事に至らないようにスタッフ全員で取り組んでいる。又毎朝必ずヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の予定だが好きな利用者様にはできる限り入って頂いている。又、嫌いな利用者様には声かけに注意しスタッフを変えたりして強引にならないように声掛けをして気持ちよく入って頂く。車椅子の方も浴槽に入れるよう努めている。	取決めはないものの、結果として週2~3回お風呂には入っていて、「無理時強いはしない」「希望に応ずる」という方式で取組んでいます。可動式の浴槽と豊富な手すりや安全設計な浴室では、浴剤を選ぶ人もいたり、歌をうたう利用者もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケアプランにも載せているが今までの生活習慣を壊さないようにその方の状況に合わせて入眠、起床時間等決めて安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬をしないようその日の分を並べ当日勤務のスタッフ同士は声かけをして必ず確認、又利用者様にも確認をして服用して頂いている。服用の仕方もその利用者様に合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制ではなくその人の得意とするお手伝いをやって頂く。(ボタン付け、衣服の繕い、食器ふき、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物量み等)又、コーヒーを自宅で愛飲されていた利用者には毎朝食後、ソーサー付きのコーヒーカップに入れて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気の良い日はできるだけ散歩や駐車場での日光浴、会話などをしたり月に一度の外出、外食を行うことにより気分転換をして頂きホーム内のみの生活にならない様支援している。又、管理者の外出時に場所によっては一緒に連れていく事もある。	気候の良い頃には散歩もありましたが、最近では「寒い」と出たがらないため、外気浴程度に留まっています。用宗港のしらす丼、丸子のとろろ汁、真富士の里でのかき揚げ蕎麦等々『月に1度はお出かけ&食事』が慣行されています。3月にはいちご狩りも予定されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失して不穏になったりするので本来は預かったり所持はしていませんがご本人が買いたいものがある場合はご家族に相談の上、立替で希望の物を一緒に買い物に行ってます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をして頂いたりお手紙も出したりして特に問題なく行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの経験から設計等参加させて頂き皆さんが落ち着いて暮らせるようにホール、居室、トイレの壁の色や風呂を移動式にしたり、テーブル、椅子、カーテンはオーダーでシックな物にしたり全体的にほぼ希望を聞いて造って頂けました。	木目調のシックな素材でドアや柱が統一され、トイレの壁紙も丹念な検討が見て取れる雅な色調です。特注で作ったという、食堂の椅子の背もたれとソファが同素材なことも目を惹きます。廊下もリビングも広くゆったりとしていて、昼寝をして帰る家族がいるとの話も聞けます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごされているホールではテーブルの位置等その時の状況に合わせて変えている。又ソファで横になったりテレビを鑑賞されたりしてゆっくり過ごして頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や装飾品、又お食事に使用する茶碗、お椀、箸、湯呑みなどは今までご自宅で使用していた物をできるだけ持参して頂いて見慣れた中で安心して過ごせるようにしている。(新しい物はご自分の物でないと主張される方もいる為)	ベッドは低床のものを吟味して選び、予め事業所で用意しており、見学の家族からも「助かるよ」「使いやすいそうね」と好評です。長年家宅で使い込んだものらしき趣のある大きな椅子や、ラジカセが持ち込まれ、その人らしい居室であることを視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台、浴室は最初からドアに字や絵をつけ各居室は花の絵の名札に名前をつけてご本人が迷うことがないようにしている。見守りは必ずするができる限りご自分で自立した生活が出来るよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一向敷地 <川側ユニット>		
所在地	静岡県駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	平成31年1月2日	評価結果市町村受理日	平成30年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2294202078-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊社の施設では初めての平屋の建物となります。外観は白い壁で洋風ですが中に入ると和モダンで落ち着いた作りになっています。山側と川側の2ユニットで真ん中の壁を外すと両方が繋がって合同で行うイベントにはとても広い空間ができ伸び伸びとした動きができます。お風呂は可動式で利用者様の身体にあわせて変えることができます。又各居室には安全性に考慮して低床ベッドを備え付けカーテンは優しい色合いにして壁も山側と川側の色を変え皆さんが落ち着いて暮らせるように案を出して出来上がりました。場所は緑の山と安倍川に囲まれ安倍川では夏の花火大会を目の前で見ることができのどかで静かな雰囲気です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木目調のシックな素材で統一された、穏やかな雰囲気のある事業所です。開設したばかりで未だオペレーションは落ち着かず、職員の係さえ未整備の状態ですが、『利用者第一』を旨に利用者一番の楽しみである毎日の食事とともに、食レクにも大いに力を注いでいます。管理者が自宅でスポンジケーキを焼いて、クリスマス用に利用者がデコレーションしたときは、「珈琲とセットだと千円はするね」と利用者も弾んだ声を発し、ホットプレートでの餃子パーティーでは包むプロセスを愉しみ、「月に1度はお出かけ&食事」ではペイドリームのお刺身定食、用宗港のしらす丼、真富士の里でのかき揚げ蕎麦等々、目と舌で季節を堪能しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月に開設し企業理念が職員全員に周知されていない為常に見える場所に企業理念を掲げ一日のスタートとして毎朝、朝礼時の最後に必ず読み上げて全員が共有して実践につなげるようにしている。ここに入居者様にも参加して頂くときもある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩中ご挨拶したり地域の事業所の催しには利用者様を連れて参加させて頂いたりできる限りの交流を深めていくように努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所様にはご挨拶に回っている。又、顔を合わせた時には認知症の為大声を出したり、テレビの音を大きくしたり、ごみを窓から投げ捨てたりしてご迷惑をおかけしている事など認知症についてはお話を理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の現況、行事等を報告し又町内会長、地域包括センター様のアドバイスを受けそれをこれからの運営に生かしていけるようにしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内等区役所に提出しているがお忙しい様子で欠席のお返事が来てます。又介護相談員の受け入れもまだお願いしていないので近日中にお願いに伺います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会では「身体拘束」についての勉強会を行ったり朝礼時にも「ヒヤリハット」を読み上げそれについて話し合ったりしている。特に玄関の施錠については絶対しないことをスタッフは認識している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会では「身体拘束」についての勉強会を行っているがその際「虐待防止」についても学びどういものが虐待であるかスタッフ全員に周知してもらっている。又その場面を見たら注意、又は管理者に報告をするようにして防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ該当する方はいらっしゃらないがこの件については包括支援センターの勉強会に出席しておりこれからの支援に生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ずご本人、ご家族に見学をして頂きその際十分説明をして疑問点・質問等を伺いご理解や不安をなくしてから契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の要望を聴き記録に残してできる限り一人ひとり希望を叶えるようにスタッフ全員で共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人一人と接触するようにはして意見・要望などを聴きそれを生かすように努力はしている。又、申し送りノートを活用して職員の意見・希望を出してもらい皆で検討したりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価、現場評価、テストの結果により昇給等の参考にしている。又、通常の勤務状況や実績を評価して3月の社員表彰式を行ってやりがいや向上心を持って働いてもらえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社3年以内の職員には本部でフォローアップ研修を行ったり11月より月1回、外部の講師を招いて勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域で行っている長田地域密着連絡会では本年8月より参加させて頂き人材確保等困った事をお互いに意見交換して情報を共有しサービス向上に取り組んでいる。11月の第29回では弊社で実施しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はまだ慣れないこともあり寂しいをしたり不安にならない様職員ができる限り寄り添って聴いてあげたり関わりを持ちコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面談時には必ずご挨拶をしてお話をする時間を設けご家族の希望や困ったことなどをお伺いして不安がないようにしている。又県外にご家族がお住まいの方についてはメールやお手紙等で近況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には施設見学をして頂きご本人様と面談をしてアセスメントをとりその時点で必要としている事や希望、困った事を聞き取り担当の介護支援専門委員からの情報も提供して頂き初期対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあくまでも施設の者ではなくその時の状況により娘、息子、孫、友達になったりしてみんなで和気あいあいと一緒に暮らしている気持ちでいる。但しあくまでも馴れ合いにならない様尊敬の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族を尊重し思いを真摯に受け止め失礼の無い様に良い関係を持つように努めている。面会時にはご本人とご家族がゆっくりお話できるように場を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間を気にしないでいつでも来ていた頂けるように声掛けをしており来て頂いた際には職員一同笑顔で接するようしており場合によっては居室へご案内をしたりしてスタッフ全員が来やすい状況を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては個別対応するときがあるができる限り職員、利用者が混じったりしてみんな雑談したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在はまだ期間が短いので契約終了のケースはないが今までの経験上、お手紙を出したりボランティアに来て頂いたりしてお付き合いを続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に話す機会を作り、今したい事、困った事、要望を聞きスタッフ皆が共有できるように記録に残して思いを叶えようと努めている。スタッフはまだ少ないうちにできる限り希望を叶えてあげたいと利用者に対する気持ちは強い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子をご家族、入所していた施設、介護支援専門員などの情報を提供して頂き今までと生活が大きく変化することがなく同じような生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やその他職員同士顔を合わせた時はお互いに現状報告をして常に利用者の把握には努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会やカンファレンスでご本人、ご家族の要望等、ご本人の変化を職員間で共有し意見交換を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士私的な話はしないでその分利用者にも目を向け気が付いたことは経過記録表、バイタルチェック表に詳しく記録しその場、朝礼時、会議時に話し合い情報の共有をしている。最近全体的に利用者にも目を向けることが多くなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	殆ど既存のサービスに捉われる事がなくご本人やご家族のニーズには柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近隣を利用したりボランティアもなるべく近隣の方をお願いしている。利用者のご家族にも協力を頂き駐車場でさんまを七輪で焼いたり敬老会では本の読み取りなどお手伝いして頂きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第一、第三金曜日に往診に来て頂き利用者様の状況を詳しく説明して診て頂いている。常に医師との連携を図っており利用者様の状態に変化が見られた場合はすぐ担当医に連絡をして指示を仰ぎ重症化しないように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週に一度来て頂きバイタルチェックや状態を報告し利用者様の健康管理に努めている。担当医との連携がとれているので変化がみられたらすぐに担当医に状況を説明して頂け担当医の指示を頂いているので早い対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状ではまだ入院はされていないが利用者様の身体の変化や緊急事態の場合は訪問看護師、担当医師にすぐに連絡をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ該当する方はいらっしゃらないが「看取り及び医療連携に関する指針」を作成し入居時にはご家族に説明をしている。現在職員の半数以上は他でも看取りを経験している事や定例会でも勉強している。今後取り組んで行く意思は十分にある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎研修で本部の研修を受けているがまだ途中採用の者は受けていないので今後全員に身に付けて行く。応急手当はその場面で指導している。主治医、訪問看護からの指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練は実施できた。その中には夜間帯も想定して夜勤者全員に参加して頂き行うことができた。消防署は水消火器を借りて利用者様を交え使用方法の訓練を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉掛けをすることや不適切な言葉遣いをしない様接遇については十分指導しているがそれが見られた時は管理職がその時点で呼び注意、指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや外出先を決める際、必ずそれぞれの希望を伺うようにしてなるべく順番に叶えるようにしている。又欲しい物はご本人を連れて好みの物を決めて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分の仕事を優先するのではなく経営方針でもある「お客様第一主義に徹する」の通り一人ひとりの要望・希望に沿う過ごし方をするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みやおしゃれの把握をしてその人らしいお洒落を支援している。男性には髭剃り等、女性には一緒に洋服を選んだり冬にはホットタオルで顔を拭いてクリームや化粧水をつけたりお化粧をしている方にはお手伝いをしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際もやしのひげ取りや餃子作りなどのお手伝いをして頂いたり食前にはテーブルを拭き食後には片付け、食器ふき等のお手伝いをして頂いている。味見をして頂きアドバイスを受けることもある。お楽しみメニューはリクエストを聞いて決めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録は必ずしており職員は利用者により食べる量をほぼ把握してその方にあつた量、形状を把握して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをしてご自分でできる人は無理の無い程度にやって頂き介助の必要な人にはお手伝いをしている。就寝前には義歯洗浄、消毒をして保管している。ご家族には歯の状態を報告し希望があれば訪問歯科の受診を受け口腔環境の改善をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはオムツ等は使用せずトイレで排泄する事を目標にしている。利用者によっては夜間帯のみオムツで日中はパンツ、パットにして排泄パターンを把握してトイレ誘導し無理の無いよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェック表に記録して毎朝申し送り時に便秘が何日目であるか確認。利用様により便秘薬の調整して大事に至らないようにスタッフ全員で取り組んでいる。又毎朝必ずヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の予定だが好きな利用者様にはできる限り入って頂いている。又、嫌いな利用者様には声かけに注意しスタッフを変えたりして強引にならないように声掛けをして気持ちよく入って頂く。車椅子の方も浴槽に入れるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケアプランにも載せているが今までの生活習慣を壊さないようにその方の状況に合わせて入眠、起床時間等決めて安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬をしないようその日の分を並べ当日勤務のスタッフ同士は声かけをして必ず確認、又利用者様にも確認をして服用して頂いている。服用の仕方もその利用者様に合わせている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制ではなくその人の得意とするお手伝いをやって頂く。(ボタン付け、衣服の繕い、食器ふき、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物量み等)又、コーヒーを自宅で愛飲されていた利用者には毎朝食後、ソーサー付きのコーヒーカップに入れて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日はできるだけ散歩や駐車場で日光浴、会話などをしたり月に一度の外出、外食を行うことにより気分転換をして頂きホーム内での生活にならない様支援している。又、管理者の外出時に場所によっては一緒に連れていく事もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失して不穏になったりするので本来は預かったり所持はしていませんがご本人が買いたいものがある場合はご家族に相談の上、立替で希望の物を一緒に買い物に行ってます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をして頂いたりお手紙も出したりして特に問題なく行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの経験から設計等参加させて頂き皆さんが落ち着いて暮らせるようにホール、居室、トイレの壁の色や風呂を移動式にしたり、テーブル、椅子、カーテンはオーダーでシックな物にしたり全体的にほぼ希望を聞いて造って頂けました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごされているホールではテーブルの位置等その時の状況に合わせて変えている。又ソファで横になったりテレビを鑑賞されたりしてゆっくり過ごして頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や装飾品、又お食事に使用する茶碗、お椀、箸、湯呑みなどは今までご自宅で使用していた物をできるだけ持参して頂いて見慣れた中で安心して過ごせるようにしている。(新しい物はご自分の物でないと主張される方もいる為)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台、浴室は最初からドアに字や絵をつけ各居室は花の絵の名札に名前をつけてご本人が迷うことがないようにしている。見守りは必ずするが出来る限りご自分で自立した生活が出来るよう支援している。		